特集　G20 観光大臣会合を終えて

くっちゃん子の活躍

昨年 10 月 25 日㈮・26 日㈯の二日間、倶知安町で G20 観光大臣会合が、31 の国・地域・機関の参加により開催。参加者が観光の未来について議論し、その成果として『北海道倶知安宣言』が採択されました。

町はこの開催を、倶知安の名を世界に知ってもらう絶好の機会と捉え、『倶知安町 G20 観光大臣会合推進町民会議』を中心に、さまざまな取り組みを行ってきました。今月号の特集では、これらを含む小・中・高校生による取り組みと子どもたちの思いを紹介します。

PR や“おもてなし”の取り組み

❶参加国の食事を学ぶ G20 給食
❷ 5 月の会場周辺の清掃活動
❸ウェルカムボードを会場に設置
❹会合終了後の会場を見学
❺歓迎レセプションで町を PR する倶知安高校生
❻倶知安農業高校生がオリジナルスイーツを考案し提供

その他の絵は小学生が描いた『ウェルカムメッセージ』

高校生が大舞台で提言『持続可能な観光』の実現へ

日本が初めて議長国を務めた G20 首脳会合。それに併せ、倶知安町を含む全国 8 カ所で開催された各関係閣僚会合では、国際的な人材の育成を目的とした『地元高校生からの提言』が実施されました。

本町の会合では、倶知安高校および倶知安農業高校、そして札幌市・江別市の高校から 2 名ずつ計 8 名の生徒が、事前に議論するなどして提言を作成。26 日㈯の会合では、参加者に対し、『持続可能な参加体験型観光』をテーマに英語で発表を行い、赤羽国土交通大臣に提言書を手渡しました。

清掃活動で 歓迎の気持ちを

『持続可能な観光』をテーマとした国際シンポジウムが開催された 5 月には倶知安小学校 6 年生が、10 月には西小学校樺山分校の児童が、それぞれ会場周辺の清掃活動を行いました。

「町の中をきれいにすることで、私たちの歓迎する気持ちが伝わればと思い、活動しました。すでに世界各国からの観光客をお迎えしている倶知安町ですが、さらに有名になったらうれしいです」

田原 新菜（にいな） さん
（倶知安小学校 6 年）

国旗の塗り絵で おもてなしを

小学生が取り組んだ『国旗塗り絵』や『ウェルカムメッセージ』の作品はウェルカムボードに活用され、会合会場付近などに設置。子どもたちは、参加国の代表的な食べ物や言語などを調べ、ていねいに取り組みました。

「複雑な模様の旗もありましたが、その国に対して失礼がないよう、お手本どおりに描くことを心掛けました。G20 の開催は、冬だけではない町の素晴らしさを、より多くの人に知ってもらう機会になったと思います」

千田 花菜（はな） さん
（北陽小学校 6 年）

会場見学で 会合の雰囲気を肌で感じて

町は、10 月 30 日㈬と 11 月 1 日㈮・21 日㈭、小中学生を対象とした G20 の会場見学を実施。子どもたちは、担当職員の説明を聞きながら、実際に会合が開かれた HANAZONO308 棟などを見学することで、G20 の雰囲気を体感しました。

「自然と調和したガラス張りの外観が印象的で、中に入ると照明の明るさや木の材質から温もりを感じました。都会では味わうことのできない落ち着いた雰囲気によって、参加者の皆さんも穏やかな気持ちで会合に臨むことができたのではないかと思います」

渡邉 凜（りん） さん
（倶知安中学校 3 年）

観光客は地域の魅力に触れ 地域は異文化を知る

8 名の生徒たちは、外国人観光客が増加傾向にある日本国内において、都市部だけではなく、地方も観光による利益を得ることで地域の活性化を目指す『Be Local, Be Global Project』（ビーローカル ビーグローバル プロジェクト）を提案。これは、近郊の市町村が一つのコミュニティとなってそれぞれの特色を生かしたコースを作成し、それを旅行会社と協働して観光客に直接提案するというもの。観光客と地域住民が互いにコミュニケーションを図ることで、観光客にきめ細かな地域の魅力が伝わるだけではなく、地域住民も異文化に触れることができます。生徒たちは、約 10 分間の発表を「地域の魅力は何かを住民自らが考えることが、持続可能な観光を実現するための第一歩」と締めくくりました。

次のページでは、町内の高校生 4 名がこれまでの活動を振り返り、町の未来への思いを語ります。

まちの未来を考える

高校生の想い

G20観光大臣会合という大舞台での提言発表に参加した4名の高校生。彼女たちはこの機会に、自分たちが暮らす町を見つめ直し、観光の未来について考えました。

9月10日㈫、北海道庁で開かれた特別授業に参加。その際に、町外の高校生4名と初めて顔を合わせて以降、8名はSNSでのやり取りなどを通じて意見を出し合い、提言内容をまとめるための議論を続けてきました。

倶知安高校の『ESS* 同好会』に所属する青木さん・石崎さんと、倶知安農業高校で生徒会活動を行ってきた湊谷さん・木村さん。

彼女たちは、提言の発表に向けてどのようなことを考え、この経験から何を学んだのでしょうか。

――活動を振り返って

青木・石崎　当日は、会場の方々が私たちの発表を笑顔で聞いてくれたおかげで、緊張が和らぎました。私たちが日頃学習している英語の力を発揮することができたと思います。

湊谷・木村　私たちは、学校で以前から『SDGs』について学習しており、提言の内容については、それを踏まえたものにしたいと考えていました。当日は、温かい雰囲気の中、自分たちらしい発表ができたと思います。

――倶知安町の観光について

湊谷　倶知安町やその周辺は、豊富な観光資源を活用し、地方でありながら急成長を続けている地域です。先進的な観光を目指せるこの町だからこそ、G20観光大臣会合が開催されたのだと思います。

ESS * ～ English speaking (study) society の呼称で、主に英語活動を行う

青木 千夏（ちなつ） さん
（倶知安高校 2 年）

石崎 結子（ゆうこ） さん
（倶知安高校 2 年）

提言書提出の様子
（10 月 26 日パークハイアットニセコ HANAZONO にて）

湊谷 羽月（はづき） さん
（倶知安農業高校 3 年）

木村 愛梨（あいり） さん
（倶知安農業高校 3 年）

青木　町の中では英語の表記をよく見かけます。これは、外国人観光客が多いこの地域ならではなのではないでしょうか。

木村　倶知安といえばパウダースノー。男女年齢問わず、自然と触れ合える観光ができるのは町の魅力の一つだと思います。

石崎　生活の中で、観光客と触れ合う機会が多いと感じます。スキー場や飲食店など、観光客が集まる場所と住民の生活圏が重なっており、互いにコミュニケーションがとりやすい環境だと思います。

――町の未来のために

湊谷　3年間の学校生活の中で学んだことを、提言発表で生かすことができました。卒業しても、町の魅力を忘れることなく、これまでの経験を生かしていきたいです。

石崎　国や地域によって食事や言語などが異なります。多様な文化を私たちが学び、理解を深めることで、誰もが過ごしやすい地域になっていくのではないでしょうか。

木村　長く住んでいると当たり前に感じてしまいますが、他の町にはない魅力がこの町にはあります。これからも人とのコミュニケーションの中で、町の素晴らしさを発信できたらと思っています。

青木　こちらの話す英語がたとえ完璧でなくても、伝えようとする気持ちがあれば、相手は理解しようとしてくれます。観光客と積極的にコミュニケーションをとることで、自身の英語力を向上させると同時に、地域の魅力を知ってもらいたいです。

私たち住民は、この町に国内外からの観光客が多く訪れている現状は知っていながらも、それについて深く学ぶ機会はほとんどありません。そのような中、子どもたちにとって G20 の開催は、町や世界の国々のことを、さまざま角度から学習するきっかけになったのではないでしょうか。

今、北海道そして倶知安町は、世界中から注目されつつある地域です。自分が暮らす町が、どのように見られているのかを知ることは、子どもたちにとって大きな財産です。そして、町の未来を考える若い世代が増えることが、『持続可能な観光』につながっていくのだと思います。